



food bank FUJINOKUNI
フードバンクふじのくに
「もったいない」から「ありがとう」へ

②フードバンク活動を利用した食のセーフティネット事業

フードバンクふじのくに

フードバンク事業と生活困窮者支援

特定非営利活動法人 フードバンクふじのくに

フードバンクふじのくに 概要

設立：**平成26年5月**

特定非営利活動法人(NPO)認証9月24日

主たる事務所：**静岡市葵区宮ヶ崎町53番地**

代表者：**日詰一幸**（静岡大学 教授）

職員数：**3名+ボランティアの方々**

主な事業：**フードバンク事業**



理事長 日詰一幸

設立趣意

日本では、**食料自給率が4割**(カロリーベース)を切っているにも関わらず、印字ミスや外箱の破損等の理由で、流通させることができずに処分せざるを得ない食料は**年間約5～800万トン**と言われており、これは**日本の米の生産量**に相当します。その一方で、明日の食事にも事欠く人が増えています。

私たちは、この矛盾した2つの問題を結びつけ、処分せざるを得ない食料を預かり、本当に食料を必要としている人や場所に届ける、**フードバンク事業**を行います。

フードバンクは今、全国的な広がりを見せています。そんな中、食品会社も多く、人々の助け合いの精神あふれる「ふじのくに」静岡県において、明日食べるものがないという人が多数いるにもかかわらず、それを解決できるような行政の仕組みや活動が活発に行われていないという現状があります。

フードバンク活動を行うことで、**企業は処分コストの削減**ができ、**地域の社会貢献**につながり、また、**環境負荷の軽減**といった効果も期待できます。その一方で、困窮者が食料の支援を受けることにより、節約をすることができた食費を**就職活動等**、別のことに使うことができるようになり、生活に余裕ができることとなります。また、大規模災害のおそれがある静岡県において、フードバンク倉庫は**食料備蓄庫**としての機能も担います。

私たちは、処分せざるを得ない食べ物を有効活用することにより、食料を無駄にせず、食を分かち合い、命や人権を守るため、各方面の団体の協力を得て、**特定非営利活動法人フードバンクふじのくに**を設立することとなりました。

フードバンクを地域の仕組みとして定着させ、食を通じて人の縁を結び、お互いが助け合う、「**困った時はお互い様**」な社会作りを目指します。そして、フードバンクの設立が、私たちの暮らす社会の在り方を改めて見直すきっかけとなり、「**もったいない**」を「**ありがとう**」に変えることが当たり前の社会になることを、私たちは強く望んでいます。

設立趣意

フードバンクを地域の仕組みとして定着させ、食を通じて人の縁を結び、お互いが助け合う、

「困った時はお互い様」

な社会作りを目指します。そして、フードバンクの設立が、私たちの暮らす社会の在り方を改めて見直すきっかけとなり、

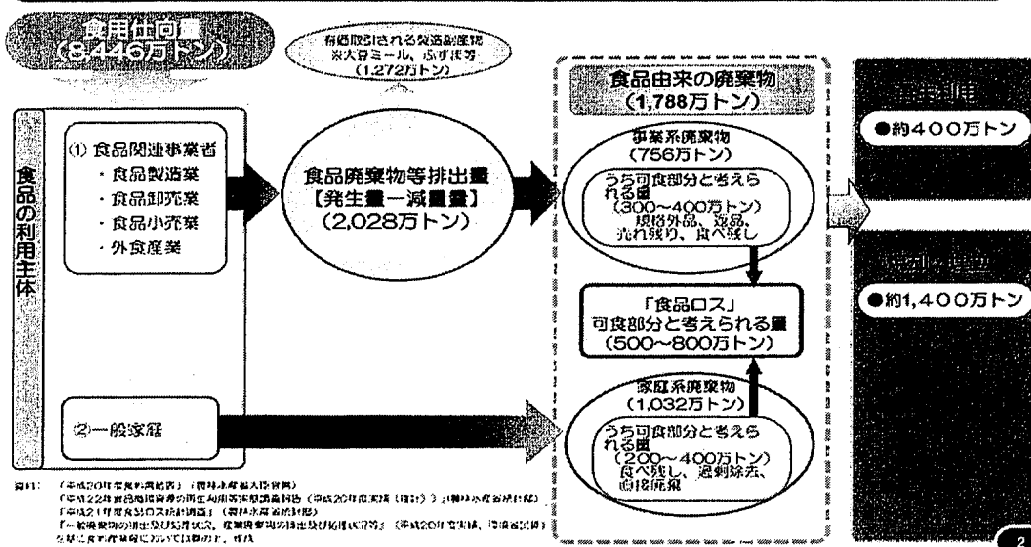
「もったいない」を「ありがとう」

に変えることが当たり前の社会になることを、私たちは強く望んでいます。

フードバンクとは

日本のもったいない食料事情

○ 日本では、年間約1,800万トンの食品廃棄物が排出。このうち、本来食べられるのに廃棄されているもの、いわゆる「食品ロス」は、年間約500～800万トン含まれると推計。（平成21年度）



資料1：「平成20年度食料調査報告書」（農林水産省）
 資料2：「平成22年度食料調査報告書の再生利用等実施調査報告書」（平成20年度食料調査報告書）
 資料3：「平成21年度食料調査報告書」（農林水産省）
 資料4：「平成21年度食料調査報告書」（農林水産省）
 資料5：「平成21年度食料調査報告書」（農林水産省）

日本のもったいない食料事情

**日本の食品廃棄物
年間1800万トン！！**

家庭から1000万トン！！

日本のもったいない食料事情

まだ食べられる…

800万トン！！

食品ロス(食べられる食料)

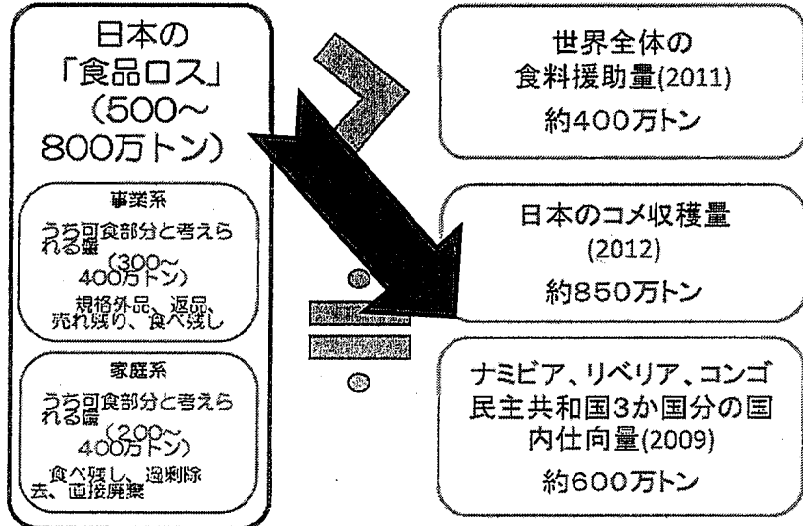
企業から300~400万トン

家庭から200~400万トン

日本の食品ロスの大きさ

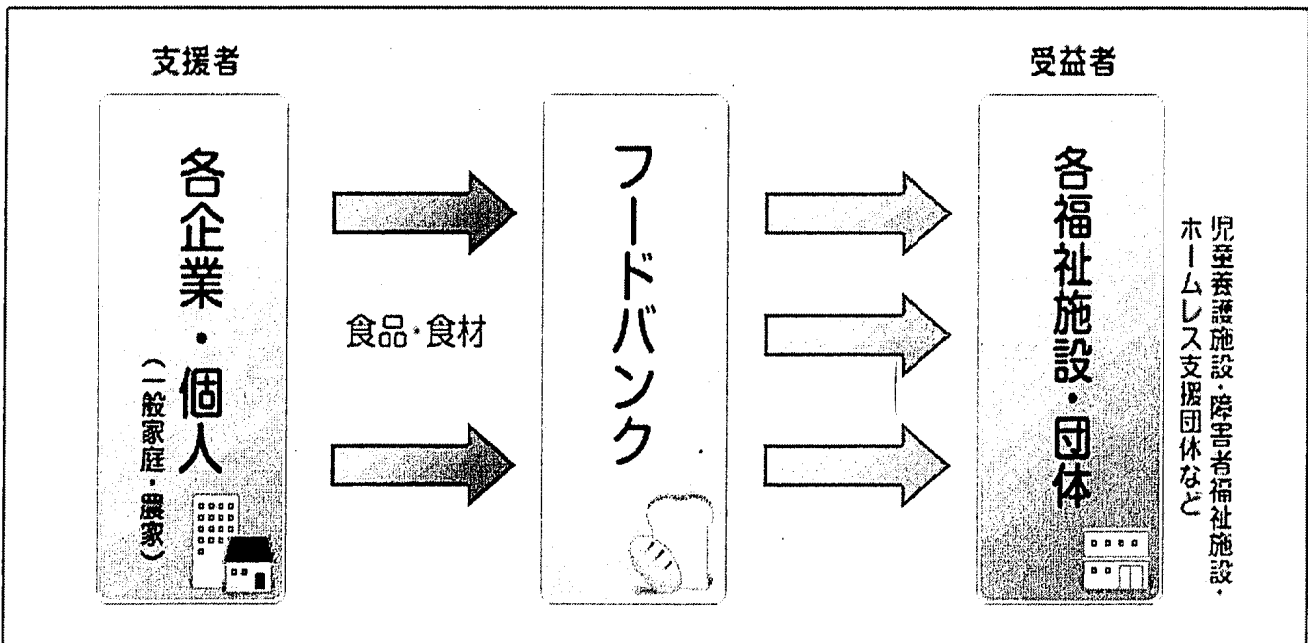
- 日本の食品ロス（年間約500～800万トン）は、世界全体の食料援助量の約2倍。
- 日本のコメ生産量に匹敵し、日本がODA援助しているナミビア、リベリア、コンゴ民主共和国3カ国分の食料の国内仕向量に相当。

規格外品、期限切れ等により
手つかずのまま廃棄される食品



新しいセーフティネット ～ フードバンク ～

フードバンク関係図



企業から安全に食べられる食品廃棄物を寄贈として受け、福祉施設や生活困窮者等に届ける活動です

フードバンクが必要とする食品はどんなもの？

- ・ 中身には何の問題もないが、外箱に傷がついた又は印字ミスをしてしまい、**売り物にならなくなった商品**
- ・ 収穫シーズンに採れ過ぎてしまった農産物の過剰品や、サイズが合わないため**売れない規格外品**
- ・ 生産工場などで、欠品を出さないために作られた**余剰品**
- ・ 官庁や企業が、職員のために**備蓄した防災品**のうち、期限が迫ってきたもの
- ・ 賞味期限まではまだ間があるが、小売店などで**販売する期限が切れてしまったもの**

※賞味期限切れ、または賞味期限が間近で消費が困難な商品などは利用できません。

どういう人が利用するの？

- ・生活保護1歩手前の状態の方
- ・就職後の初回給与まで食料がない方
- ・各種貸付制度を申請して、受給までの間
- ・雇用保険受給までの間

上記の状態以外にも、
生活に困窮している状態の方を対象としています。

※生活保護受給中の方はフードバンク支給の対象外

助成事業の概要について

平成26年度助成事業

「フードバンク活動を利用した 食のセーフティネット事業」

「フードバンク事業を地域の仕組みとして確立させ、相互扶助の社会作りを」することを目的に、

「まだ安全に食べられるにもかかわらず処分されてしまう食料を、企業や個人から寄贈を受け、生活困窮者等、支援を必要としている人に適切に配ること」を実施する事業

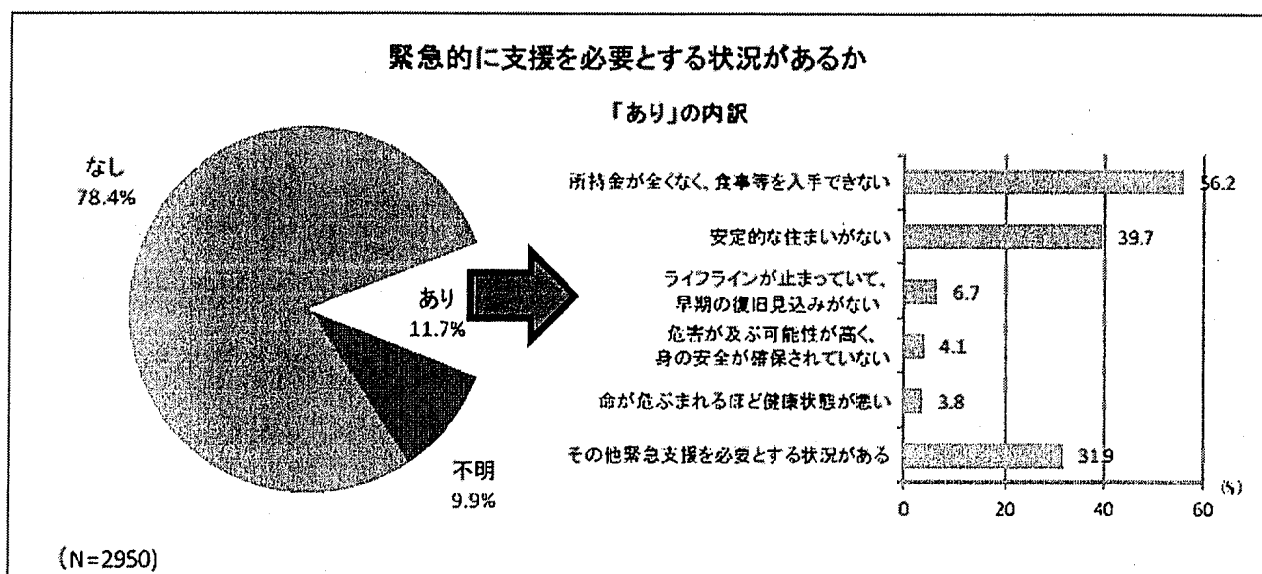
平成27年度助成事業

「フードバンクが繋ぐ

広域支援ネットワーク事業」

「フードバンク事業による食料支援の地域間格差を是正」することを目的に、「市役所、町役場及び社会福祉協議会と連携を広く、深くしていき、静岡県で食によるセーフティネットの構築」をする事業

相談窓口モデル事業のアンケート結果



(みずほ情報総研株式会社によるモデル事業調査)

緊急の支援に対応する必要がある！！

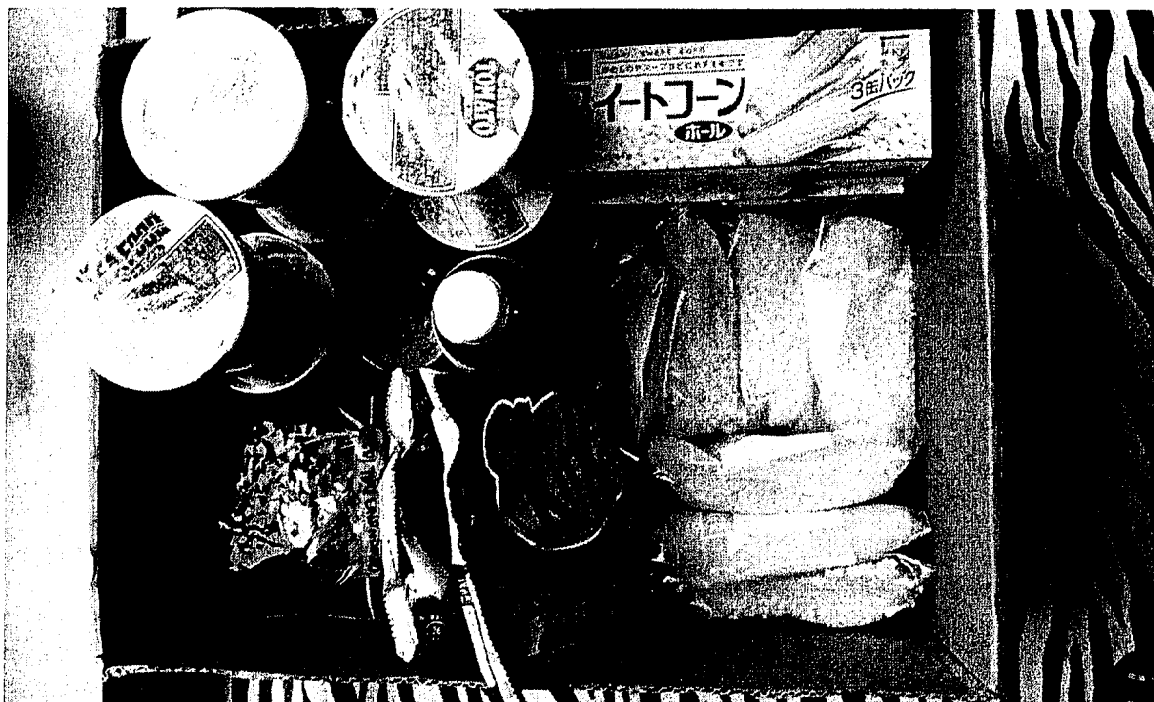
助成事業のニーズと目的

生活困窮者自立支援法が施行
各市町に生活困窮者の自立相談窓口が設置
緊急的な支援が必要な相談が増加

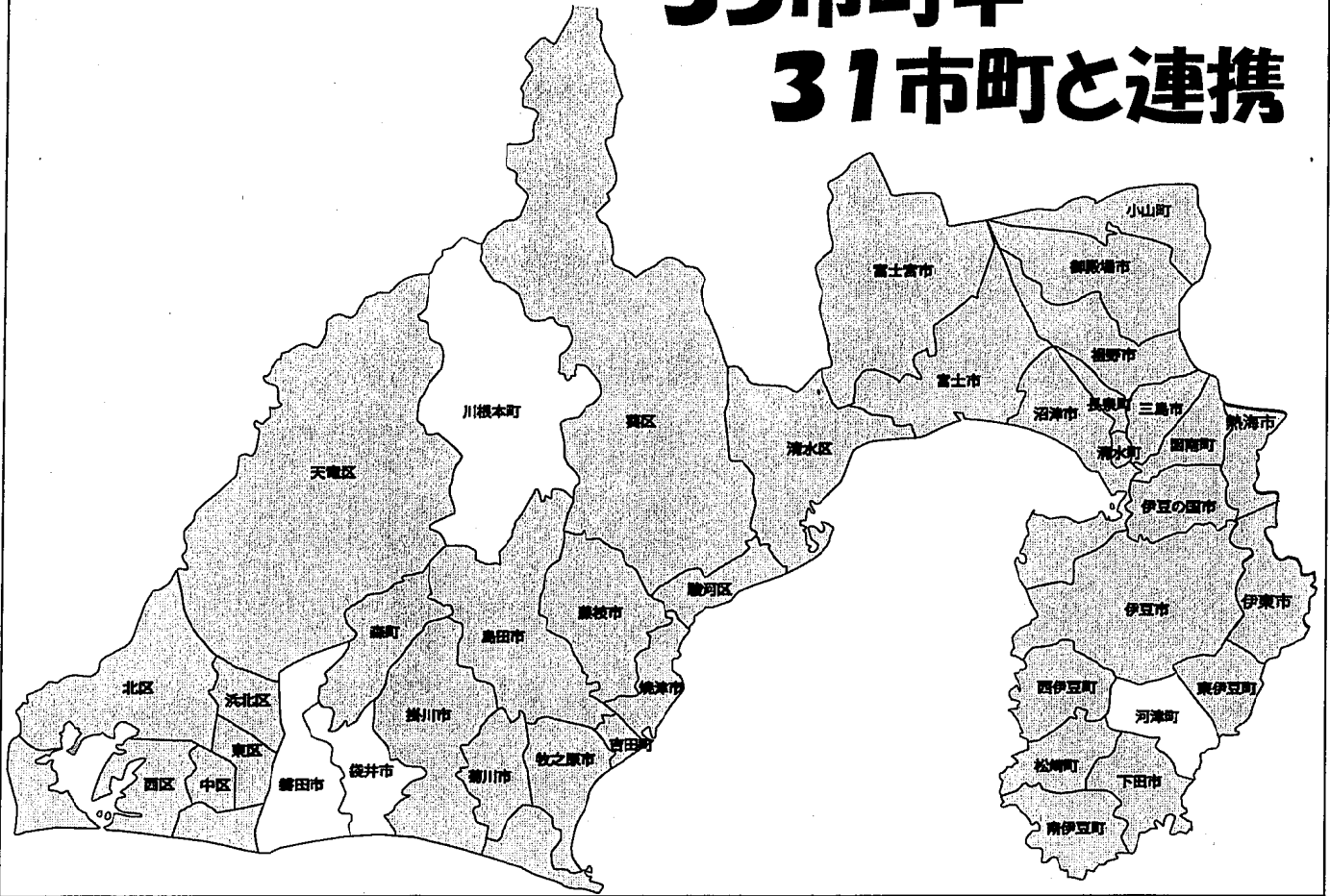
静岡市	月の相談件数	約 150 件
	うち食料支援が必要な件数	約 60 件

県内で同じような状況が起こっています。

フードバンクによる食料支援例



35市町中 31市町と連携



静鉄ストア フードドライブ



島田市役所 フードドライブ



湖西市役所 フードドライブ



各地域の労働者福祉協議会 フードドライブ



フードバンクふじのくに実績

平成26年 助成事業開始から～平成27年9月30日 現在	
依頼数(出庫)	1056件
寄付件数(入庫)	570件
入庫総量	44.7トン
出庫総量	38.9トン
同意書締結企業数	47社

最近では月100件以上の依頼を受けています

今後の課題

- ・ 県内の全ての自治体および、
社協との連携を行う
- ・ 食品を提供してくれる企業の開拓
食品企業数 14社
防災備蓄品寄贈企業数 33社
- ・ 県内の各地区に拠点を作ること

今後の生活困窮者支援や
民間の支援活動の
あり方について
フードバンクふじのくに
の想い

フードバンクふじのくに事務所



住所 420-0868
静岡県葵区宮ヶ崎町53
電話 054-248-6177
FAX 054-248-6178



food bank FUJINOKUNI
フードバンクふじのくに
「もったいない」から「ありがとう」へ

【 フードバンクふじのくに ロゴマークのご紹介 】

おむすびを富士山に見立て、包まれていることで
「食べ物を大切に」することを表現。
結び目のハート型は「支援する心」を表現。
みかんのオレンジで「静岡」をイメージ。

ご静聴ありがとうございました。

ご協力よろしくおねがいします。